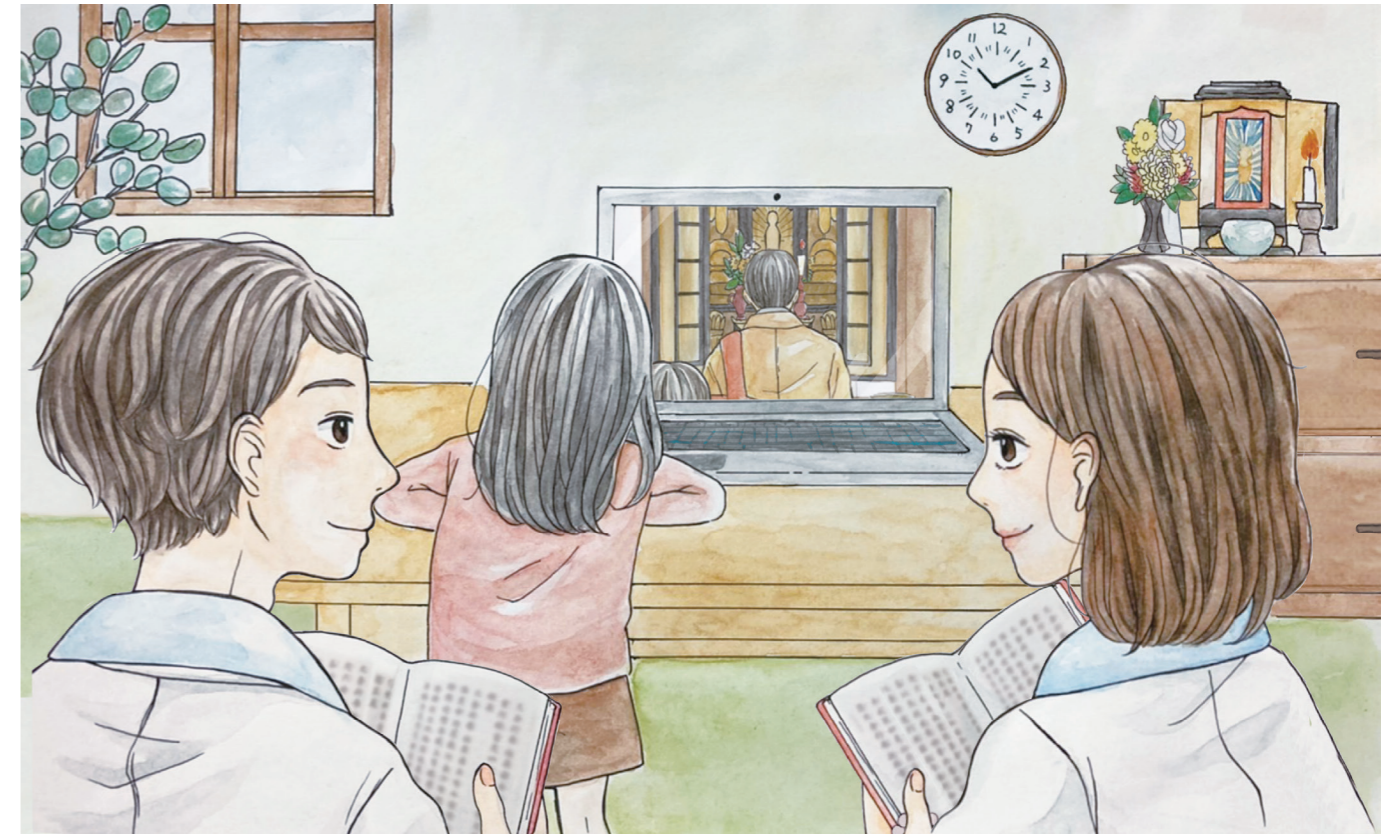


法事のすすめ

新たな気持ちで ご法事を

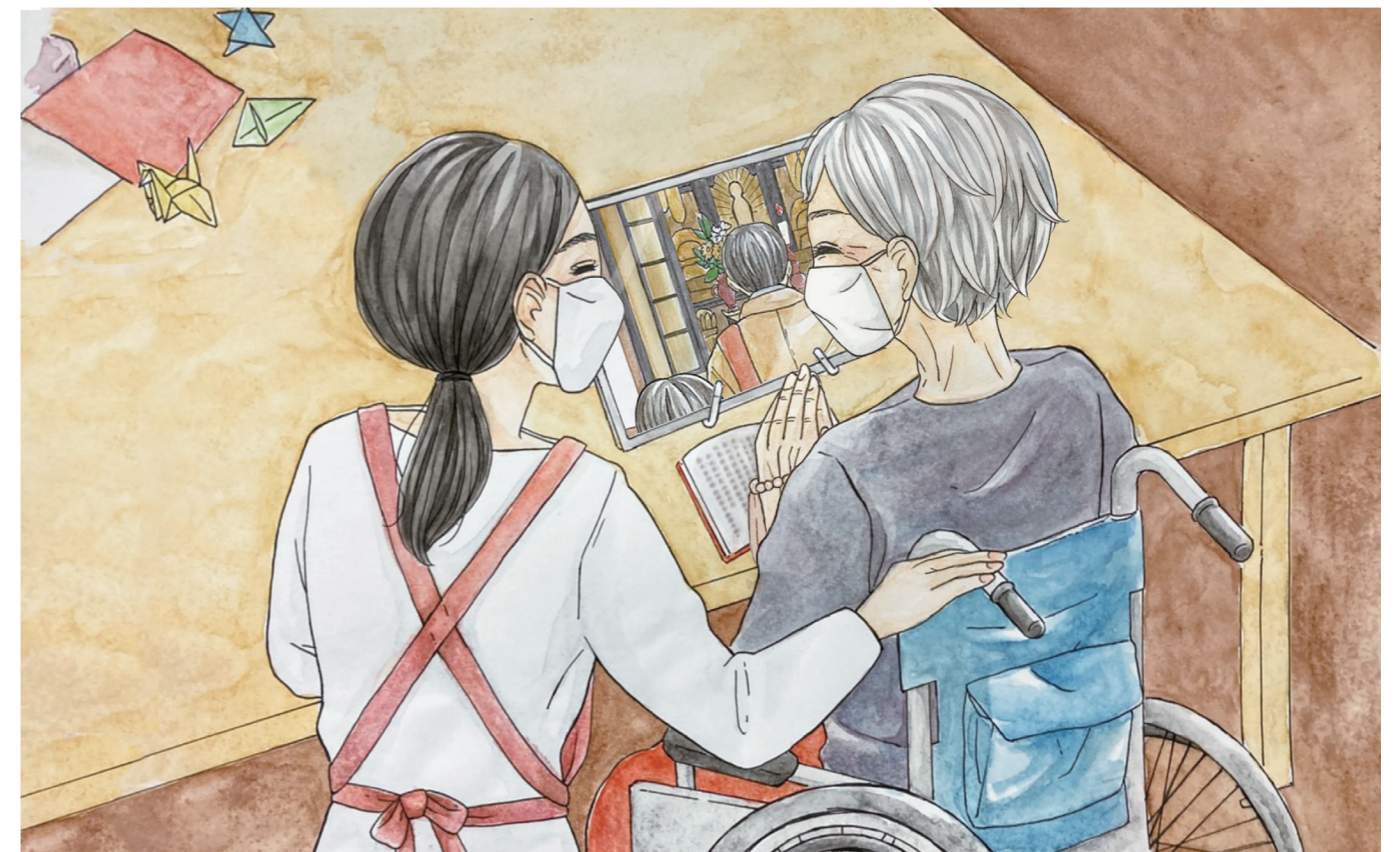


新たな気持ちで
ご法事を
まかす

新たな気持ちで ご法事を



ポスターのデータは
ホームページに掲載しています



新たな気持ちで ご法事を



・「前に生れんものは後を導き」

先立たれた方のお導きを通して

・「後に生れんひとは前を訪へ」

後に遺った者が先立たれた方を偲ぶご法事は、仏さまの願いをきく尊い仏縁です。

・「連続無窮にして、願はくは休止せざらしめんと欲す。」

そして、これから次の世代に向かっても、ご法義が連綿と続くための私の念仏者としての歩みがあります。

※「 」内の言葉は、道綽禅師の『安楽集』から宗祖親鸞聖人が『教行信証』に引用されたものです。(参考：『註釈版聖典』 p474)

私たちは、誰一人として、自分一人だけで生きていくことはできません。

- ① 人間ほど、長い育児期間が必要な生き物はいません。家族や友人、さらには学校や病院などの社会施設など、少し思い浮かぶだけでも、実に数多くの「おかげさま」によって生かされています。
- ② そういう横の空間的な「つながり」だけでなく、縦の時間的な「つながり」もあります。今の私は、親を縁として、この世に生をうけました。そして、その親にも、またさらに親がいて、何代もさかのぼれば、数え切れないほどの縁があって、今の私がいるのであり、その中の、たった一人が欠けても、今の私は存在しません。このように、私たち一人ひとは、さまざまに関わりあっており、同時に、かけがえのない存在なのです。
- ③ そして、このかけがえのない私という存在は、未来を担う次の世代へ連綿と引き継がれていきます。これまでも、これからも、私たちはつながりの中で生きていくのです。
- ④ つながりの中で生かされていることに感謝する大切なご縁、その法事を、これからもつないでいかなければならないという使命感を、お育てとして気づかされます。それは、後に遺った者が先立たれた方を偲び、仏さまの願いをきく尊い仏縁です。
- ⑤ 可能な限り仏縁にあっていただくために、漫画では、法事の一例として「リモート法事」をご紹介します。

